

第2回情報システムワーキンググループ議事録

日時：平成17年2月21日(月)13:00~17:00

場所：海洋研究開発機構横浜研究所 情報技術棟 4F Rm. 403, 404

出席委員(敬称略)：坂本竜彦，相田吉昭，氏家恒太郎，金松敏也，佐藤 暢，佐藤幹夫，鈴木紀毅，坪井誠司，成瀬 元，難波健二，横川美和，池原 実
オブザーバーほか：笠原，阿波根，伊藤，岩井，布浦，林，山川

合意事項・提言・実行項目

[情報システムWG_提言_2-1] 情報システムWGは，CDEXから提示された，IODPにおけるデータベースマネジメントに関するビジョンに関して方向性を確認し，以下の点を提言する．

- (1) 3つのIO'sが情報交換を密にし，ユーザーの立場から使いやすいシステムとなるように希望する．
- (2) J-CORESがユーザーの意見を聞きながら開発されてきた経緯や，J-CORESの有効性を積極的に打ち出すよう提言する．その具体化として，今後計画されているIODP航海での試用，DSDP/ODPのレガシーデータのJ-CORESへの搭載，を積極的に追求することを提言する．

[情報システムWG 提言_2-2] 情報システムWGは，CDEXで開発中のJ-CORESに関し，ユーザーの立場として，試用し，その有効性を評価するために，J-CORES開発期間中(2007年3月まで)に，様々な場面で試用する機会をつくっていただくよう提言する．

[情報システムWG 提言_2-3] 情報システムWGは，提言_2-3に関わって，(1)2005年に計画されている「ちきゅう」の慣熟航海において，船上でJ-CORESを試用・評価するために，情報WGのメンバーもしくはWGが指名する科学者を乗船させることを提言する．また，(2)開発期間中の早い時期に，J-CORESを高知コアセンターに配備し，コアセンターにおいて試用できる環境を整えるよう提言する．具体的には，2005年度に予定されているTCDP台湾掘削コアで試用できることが望ましい．

[情報システムWG 実行項目_2-1] 情報システムWGは，提言_2_2,2_3に関わって，J-CORES 開発期間中に，J-CORES の試用段階で出された意見(ユーザーインターフェースなど)をとりまとめる．

実行期限：J-CORES 開発期間中

議事内容

1. 出席者の自己紹介
2. IODP 情報システムをめぐる情勢と CDEX のビジョンについて

CDEX 松田氏より，IODP 情報システムに関する経緯および状況説明があった．また，CDEX のデータマネージメントに関するビジョンが説明された．概略を下記に記すが，詳しくはプレゼンテーション資料 1 を参照のこと．

- a. 経緯説明
 - 2004 年 1 月 CDEX データベースプロトタイプ完成・SPC で評価
 - 2004 年 8 月 サイトサーベイデータを LDEO と CDEX が協力して扱う．役割分担について協議．
 - 2004 年 8 月 IODP-MI Sapporo データベースマネージメント部門を 2 人増員
 - 2004 年 10 月 CDEX データベース (J-CORES と DEXIS) の総称が SIO7 となった．
 - 2004 年 10 月 CDEX テクニカルレポートを完成
 - 2004 年 10 月 IODP-MI は Publication Task Force と Data Management Coordination Group を組織
 - 2004 年 12 月 Site Survey Data Bank 公開入札告知
 - 2004 年 12 月 DEXIS インターネット公開
 - 2005 年 1 月 各 IO が DM Vision を提出
 - 2005 年 2 月 第一回 DMCG を開催
 - 2005 年 2 月 CDEX-LDEO が SSDB へ共同提出
- b. IODP SSDB 国際入札と CDEX-LDEO コラボレーション状況説明
 - i. IODP Site Survey Data Bank 国際入札に CDEX と LDEO が Joint Technical Proposal を提出
 - ii. 競合あり？ (BGS, SIO: Scripps Institution of Oceanography)

- c. CDEX DM ビジョン
 - i. ISC は次の機能を持つべき：SSDB, User Admin, Core-Sample Hub (各 IO の Core-Sample Database を統括), Log/Seismic Data Hub (各 IO の Log/Seismic Database から統一的に検索), Publication Hub (各 IO の publication の draft へ共通の原型を提出)
 - ii. データベース統合のやり方(Core-Sample Hub ,Log/Seismic Data Hub)
 - (a) 本当にひとつのデータベースにまとめる
 - (b) Clearinghouse：共通のデータ検索フォーマットを提供 (metadata を統一しておく); 実際のデータベースは各 IO が保持
 - (c) 何もしない：各データベースへのリンクを提供するだけ
 - iii. Publication Hub は各 IO へ共通の publishing software, ワークフローを提供
 - iv. ISC の詳細に関してはまだ IO 間で意思統一がなされていない
- d. CDEX オペレーションスケジュール紹介
 - i. 2005 年 2 月 J-CORES 完成納品
 - ii. 2005 年 4 月 J-CORES に JANUS からデータ移行
 - iii. 2006 年にコアを試験掘削
- e. Metadata for IODP の開発
 - i. IODP data hierarchy の確定内容紹介
- f. 質疑応答・コメントなど

2005 年中に，どういう形になるかわからないが，J-CORES を JR で試験的に使ってみる（高橋）

なぜ JANUS をそのまま移行できる形に J-CORES をつくらなかったのか？

理由 1) J-CORES は JANUS を元に発展したが ,VCD や Microbial のようなこれまでまったくなかった機能を付け加えたため，データ構造自体も違った形になってしまった．理由 2) JANUS は計測機器ごとにデータ入力プログラムを作っていたが，J-CORES は計測データをそのまま取り込む形にした．そのため，データ構造が変わってしまった．

J-CORES を実際に運用する機会を増やすべき（坂本ほか）

前の ODP のデータを研究者自身で試しに J-CORES に入力して，あたらしいフォーマットで取り出すというテストがほしい．旧来のデータのアップローダーは作ってほしい

古生物のデータに関しては 2005 年度中にアップローダーを作る（高橋）．

SSDB は国際入札であり，ISC の一部になる保障はないと思うがどうか？

ISC は SSDB 自体を持つのではなく，SSDB を検索する窓口を提供する

Publication Hub とは？

出版物を作るソフトの統一をはかる．出版物の構造・フォーマットの統一を図る．出版物の電子的配布をつかさどる．現状では，出版物自体は各 IO がそれぞれ独自に出版している．

Log/Seismic Data は J-CORES に統合できるのか？

できる．Composite log viewer でデータを並べられる．

3. J-CORES の開発状況と今後について

J-CORES の開発状況などに関して，CDEX 高橋氏より説明があった．概略を下記に記すが，詳しくはプレゼンテーション資料 2 を参照のこと

- a. 目的：船上において取得された科学データの蓄積・配布
- b. システム構造（機能分化）：Operation & Curation; Composite Log Viewer（データ可視化）；VCD（コア記載）；Stratigraphy; μ Bio（微生物）；Uploader（各種機器の計測結果入力）
- c. 新要素：深度補正（2005/9 に Workshop で議論）；Cuttings
- d. 配備：ちきゅうと CDEX data center に配備；ちきゅうから CDEX にデータ移管；SIO7 でインターネットに公開
- e. 計画：2004-03（プロトタイプ）；2005-09?（納品）；FYJ2006（おわり）
- f. 各コンポーネントの開発状況の説明があった
- g. VCD 記載項目について：Hawaii SciMP で，各 IO で話し合うよう Recommendation が出た 2005/6 ごろに IO 間で結論を出す
- h. 質疑応答・コメントなど

ユーザー定義のデータは入れられるか？

無理．J-CORES はルーチンワークのデータが対象．深度に対応した数値データは Composite Log View で表示することが可能（J-CORES

には入れられない).

船から陸上へデータ移管のタイミングは？：
まだ決まっていない．基本的には航海終了後

船のデータベースはフルセットになるのか？
決まっていない．可能ならばそうするが，不可能なら過去のデータは選択制となる．将来的には航海中にデータベースの内容を変更することも可能かもしれない．

高知コアセンターに J-CORES を配備すれば試用が容易ではないかという意見があった（成瀬）．

コアセンターに J-CORES 配備する場合でも，Operation および Curation 部分で誰かが面倒を見なければならないという指摘があった（佐藤）

J-CORES にかかわったことのない人物にテストさせるべきではないかという意見があった（鈴木）．

コアセンターに J-CORES のデータ入力についてのインストラクターを配備する必要があるのではないかという指摘があった（林）

コアセンターの配備が十分に早ければ，ICDP コアの記載でテストできるとの指摘があった（林） 提言 2-3

ICDP のデータマネジメントシステムとして DIS があり，掘削状況を公開するのに使われている．コアの記載にも用いることができるが，おそらく義務ではない（林）．

インターフェースに関してフィードバックをする機会はあるのか？（鈴木）
約束はできないが，何らかの機会を用意したい．必要なことはやっていきたい（CDEX）

開発期間中に J-CORES を実際的狀況でテストする機会を与えてほしい 提言 2-2

2005 年度のちきゅう慣熟航海で WG member もしくは WG が指名する人物を乗せて試用させ，評価させるべき． 提言 2-3

情報システム WG は J-CORES 開発期間中にユーザーインターフェースなどに関する意見を取りまとめるべきである． 実行項目 2-1

4. CDEX のデータマネージメントビジョンに関する意見交換

1 で示された CDEX の DM ビジョンに関して，意見交換が行われた

J-CORES がユーザーの意見を聞きながら開発されてきた経緯やその有効性をアピールし，データベースのより緊密な統合を積極的に主張してほしいとの意見があった（横川）。

こういったツールは試用されることによって普及するという効果があるため，積極的に海外の研究者へ J-CORES を試用するよう働きかけるべきではないかとの意見があった。

IODP に J-CORES を載せて使うことが，レガシーデータの取り込みよりも優先順位が高いのではないかと指摘があった

J-CORES はあくまでも船で使うものであり，陸上ではより上位のデータマネージメントシステムが必要．それが ISC である．レガシーデータはそこで参照できれば良いという意見があった（佐藤）

理想的にはひとつのデータベースに向かっていくのが良い．現時点での妥協として，統合したデータ取得環境を提供しようという考えを持っている（倉本）

3 つの IO が情報交換を密にしてほしいとの意見があった 提言 2-1

J-CORES がユーザーの意見を聞きながら開発されてきた経緯やその有効性をアピールし，データベースのより緊密な統合を積極的に主張してほしい．レガシーデータの J-CORES への搭載および今後計画されている IODP で試用してもらうように提言すべきとの意見があった 提言 2-1